

散在する歴史的空間を今に生かす

—埼玉県志木市旧引又宿における保全型まちづくりの提案—

正会員 ○高田真瑛志*

正会員 ※前田英寿**

* 住友林業ホームテック株式会社

** 芝浦工業大学デザイン工学部 教授・工博（※設計指導）

Conservation of Scattered Historical Spaces

—Case study on Hikimata Post-town, Shiki, Saitama Pref.—

○TAKADA Masashi*

※MAEDA Hidetoshi**

*Sumitomo Forestry Home Tech Ltd.

**Prof. College of Engineering and Design, Shibaura Institute of Engineering, Dr. Eng. (※Adviser)

1 計画の背景と目的

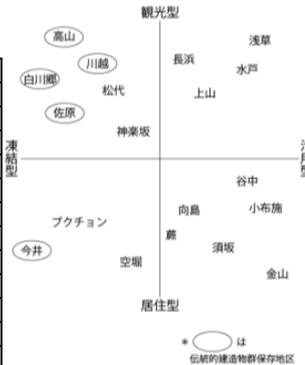
わが国には多くの歴史的空間が残っている。連続した町並みや文化財的な建造物など一見して価値が明らかな歴史的空間の保全については意識も制度も進んだ。その一方で町家や土蔵など市街地に散らばって残るいわば普通の歴史的空間については、無配慮な取り壊しや建て替えが多く、まちづくりの貴重な資源をみすみす失っている。本計画では全国の保全型まちづくりの事例をレビューした上で、旧奥州街道を軸に栄えた埼玉県志木市旧引又宿（以下、旧引又宿）を取り上げ、散在する歴史的空間を今日の保全型まちづくりに生かす方法を探ることを目的とする。

2 保全型まちづくりの先進事例

具体的な計画に入る前に全国19カ所の保全型まちづくりを現地でも調査し、特徴を要約し（表1）、観光-居住と活用-凍結の2軸に類型を展開し（図1）、要素を建築、空間、プロダクトの3系列に整理した（表2）。旧引又宿における保全型まちづくりの計画は居住型・活用型を基調とし、蔵、ギャラリー、ショップ、路地、水路、広場などの要素を扱うこととした。

表1 保全型まちづくりの事例と特徴

事例	特徴
川越（埼玉県）	蔵造りの表通りと計画された裏路地
蔵（埼玉県）	道づくりによる古い街並みの演出
神楽坂（東京都）	粋な街のアイデンティティの保存
向島（東京都）	生活路地を保存する防災とアート
浅草（東京都）	江戸の街並みの再現
谷中（東京都）	古い建築をアートに活用する
佐原（千葉県）	水路景観を活かす交通と防災
水戸（茨城県）	都市市街地に歴史空間が点在する
小布施（長野県）	計画された開いた空間の観光と環境
須坂（長野県）	修景による蔵の街並み
松代（長野県）	武家の歴史を見せる観光城下町
高山（岐阜県）	歴史とユニバーサルデザイン
白川郷（岐阜県）	世界遺産を活かした観光まちづくり
長浜（滋賀県）	企業による歴史空間の商業への活用
空堀（大阪府）	住民主体の路地ネットワーク
今井（奈良県）	住民の生活を変えない凍結保存
上山（山形県）	温泉宿場町と城下町の観光利用
金山（山形県）	住民のための住宅による景観づくり
北村（ソウル）	生活感のある街並みを見せる街



縦軸	まちづくり軸
観光型	来街者向けの商業等に積極的な事例
居住型	定住者が多く住環境を優先する事例
横軸	保存軸
凍結型	歴史的空間にできるだけ手を加えない事例
活用型	歴史的空間を積極的に活用する事例

表2 保全型まちづくり要素

建築系	住宅 蔵 看板建築 現代建築 空き家 寺社 ギャラリー ショップ 飲食店 観光案内所 ランドマーク 学校
空間系	路地 舗装 塀 商店街 敷き際空間 水路 広場
プロダクト系	街灯 サイン 案内板 自動販売機 防災

3 計画対象地（埼玉県志木市旧引又宿）

計画対象地とした旧引又宿は近隣の川越と同じく舟運で栄え、街の構造も似ている。当初は河岸の近くで栄え、鉄道の開通により中心市街地が駅周辺に移り、衰退した反面、歴史的空間が残った（図2）。旧引又宿が川越のように歴史的空間が連続していないのは、東京都心へのアクセスに恵まれているからである（図4）。ベッドタウンとして住宅需要が高く、歴史的空間は散在している（写真1・2・3、図3）。

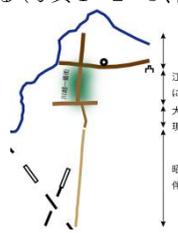


図2 川越の都市構造

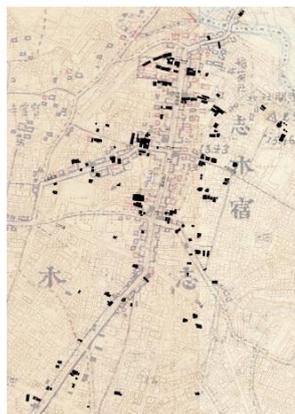


図3 旧引又宿の歴史的空間の分布



写真1 現在の旧奥州街道



写真2 かつての店と蔵



写真3 瓦屋根の工場

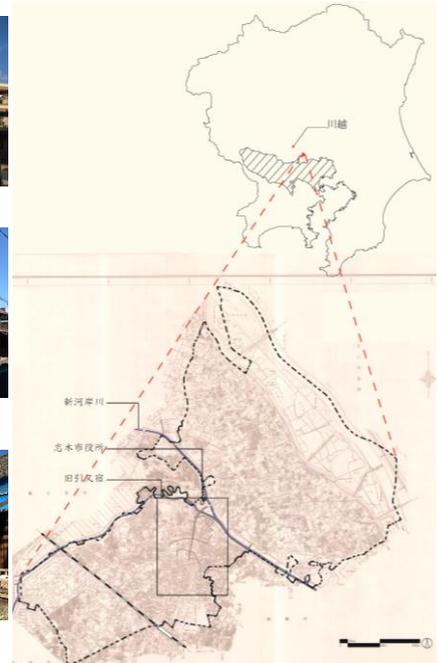


図4 関東圏における志木市の位置と全域図

4 計画

1) コンセプト「三つのキョ点」

旧引又宿の強みでもある都心へのアクセスの良さを活かし、3つのキョ点（居点と拠点と挙点）を計画のコンセプトとした。第一のキョ点は住む「居点」である。住宅需要が高いことを肯定的に捉え、歴史的空間と共存する居住空間・居住環境を計画する。第二のキョ点は活動する「拠点」である。歴史的空間を使って若者や市民が働き集う場所を計画する。第三のキョ点は東京とつながる「挙点」である。東京都心に近いからこそ、若者が歴史的空間を創造的に活用し、都市観光の価値も高いというストーリーを計画する。

2) 通りの修景と緑のネットワーク

旧引又宿の軸であった旧奥州街道沿いの修景と、河岸があった川沿いの緑地のネットワークを計画した。前者については、かつて通りの中心を流れていた水路の一部復元を計画に取り込んだ。こうした柔らかなインフラによって歴史的空間をはじめ文化・教育施設や寺社や公園などオープンスペースをつなぐのを、旧引又宿における保全型まちづくりのマスタープランとした（図5）。

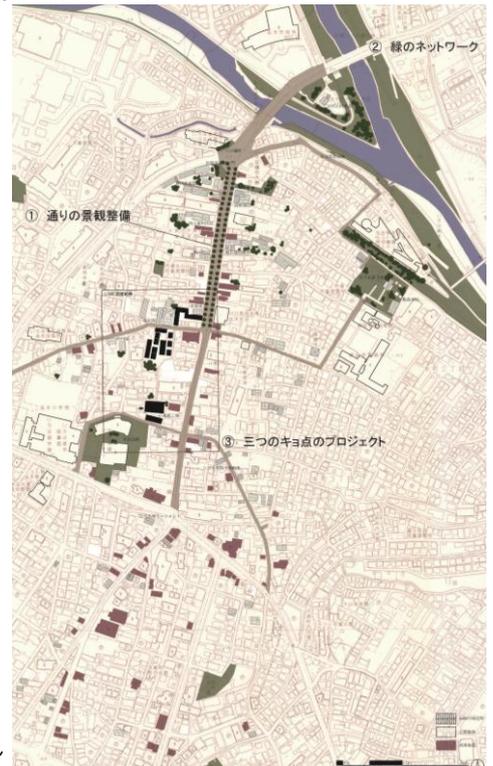


図5 マスタープラン

所在地：埼玉県志木市旧引又宿
 主な用途：住宅 店舗 ワークスペース ギャラリー
 敷地面積：街区 A 625m² 街区 B 1760m² 街区 C 1400m²
 建築面積：街区 A 431m² 街区 B 880m² 街区 C 698m²
 延床面積：街区 A 1414m² 街区 B 1230m² 街区 C 698m²
 キーワード：都市デザイン・保全・創造活動

Location : Hikimata, Shiki City, Saitama Prefecture
 Main Use : Houses, Retail, Workshops, Galleries
 Site Area : Block A 625m² Block B 1760m² Block C 1400m²
 Building Floor Area : Block A 431m² Block B 880m² Block C 698m²
 Total Floor Area : Block A 1414m² Block B 1230m² Block C 698m²
 Keywords : Urban Design, Conservation, Creation



写真4 街区A旧奥州街道側立面 写真5 街区A店舗中庭 写真6 街区A住宅と店舗
 写真7 街区Bワークスペースとギャラリー 写真8 街区Bから街区Aを望む

3) 3つのキョ点のプロジェクト

計画時点(2012年10月)で低未利用であった3街区(A、B、C)を敷地に仮定し、キョ点(居点、拠点、挙点)を実現するプロジェクトを設計した。かつて旧引又宿には舟運により各地から様々なものが集まった。これをこの地の歴史と捉え、産物や技術を集める場を計画した。伝統技術とこれを継承する若い技術者が各地に存在するが、手間暇がかかるこれらが現代に生き残るのは容易でない。地方では消費者が少なく、大都市への進出はリスクが高い。東京から程よいアクセスにある旧引又宿に住居と活動のキョ点を構えるのは現実的であると考えた。



写真9 模型鳥瞰写真

街区Aは旧奥州街道沿い、うなぎの寝床のような町家型画地である。通りに面した1~2階を店舗、3~6階を住宅とする。前者で若い技術者の成果を販売し、後者に若い技術者と家族が住む。店舗は路地と中庭を介して土蔵造りの奥まで続き、街区Bへ通り抜ける。

街区Bは土蔵や門屋が残り、現在は駐車場や資材置き場になっている。ここに共同ワークスペースを計画した。各地から集まる技術者が交流し情報交換し協働し、そして新しい何かを生み出す。市民や来街者は軒下の回廊やガラス張りの作業室から職人の仕事を見学する。成果を展示するギャラリーとワークショップができるセミナー室では技術者と市民が交流する。ビジネスの萌芽も期待したい。

街区Cは今も営業する小さな工場(写真3)である。まちなかのものづくりはできるだけ残したい。製造部門を集約して、市民が使えるコミュニティスペースを計画した。天井の高い大空間を利用して、ワークショップや技術者同士のコラボレーションが可能と考えた。

5 結語

本計画では伝建地区から小さな城下町、宿場町まで様々な歴史的空間の調査から得た知識や経験を提案に活かすことを心がけた。散在する歴史的空間を繋ぐことを意識したことにより、過去と現代を融合する都市空間と活動を提示できたと考える。



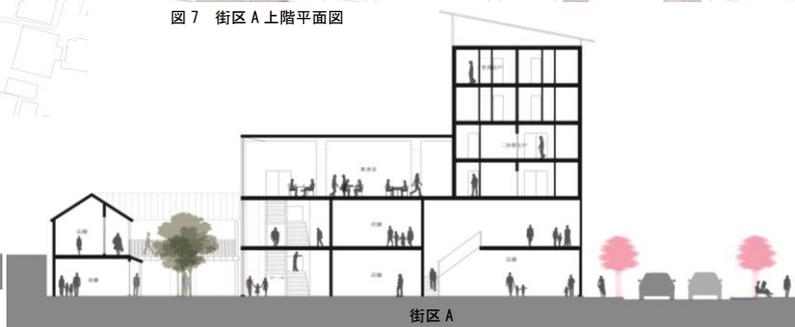
図6 プロジェクト配置図兼一階平面図



図7 街区A上階平面図



図8 プロジェクト断面図



街区A